

コロンビアの財政収支・公的債務等にかかる最新動向

標題の件、本年3月5日にS&Pが外貨建て国債の格付けをBBからBB+に引上げ¹、コロンビアに対する注目が高まっている。同国の財政収支、公的債務等にかかる最新の動向、下記の通り。

記

1. 財政収支

- 2005年、石油価格の高騰と高度経済成長²による税収増を背景に、コロンビアの公的財政(中央及び地方)は11年振りに均衡した。
- 中央政府の財政収支については、近年GDP比5%程度の赤字で推移。2005年には14.26兆ペソまで拡大したが(表1、2参照)、GDP比では3.8%に縮小した。
- 2007年、政府は、好調な税収増、債券発行抑制等により中央政府の財政赤字をGDP比3.5%とする目標を設定している。
- 政府の歳出抑制について、ウォールストリートの大方のアナリストはやや悲観的で、①麻薬・治安対策の支出、②公的債務の利払い及び③年金支出の各々の抑制は困難であろうと予測している。
- また、中央政府が赤字縮小対策の一環として推進している地方交付金にかかる改革の動向が注目される。憲法で義務付けられている地方交付金の減額には、本年6月迄の計4回の議会審議に加え、憲法裁判所の承認が必要。

(表1)

(単位:10億コロンビアペソ)

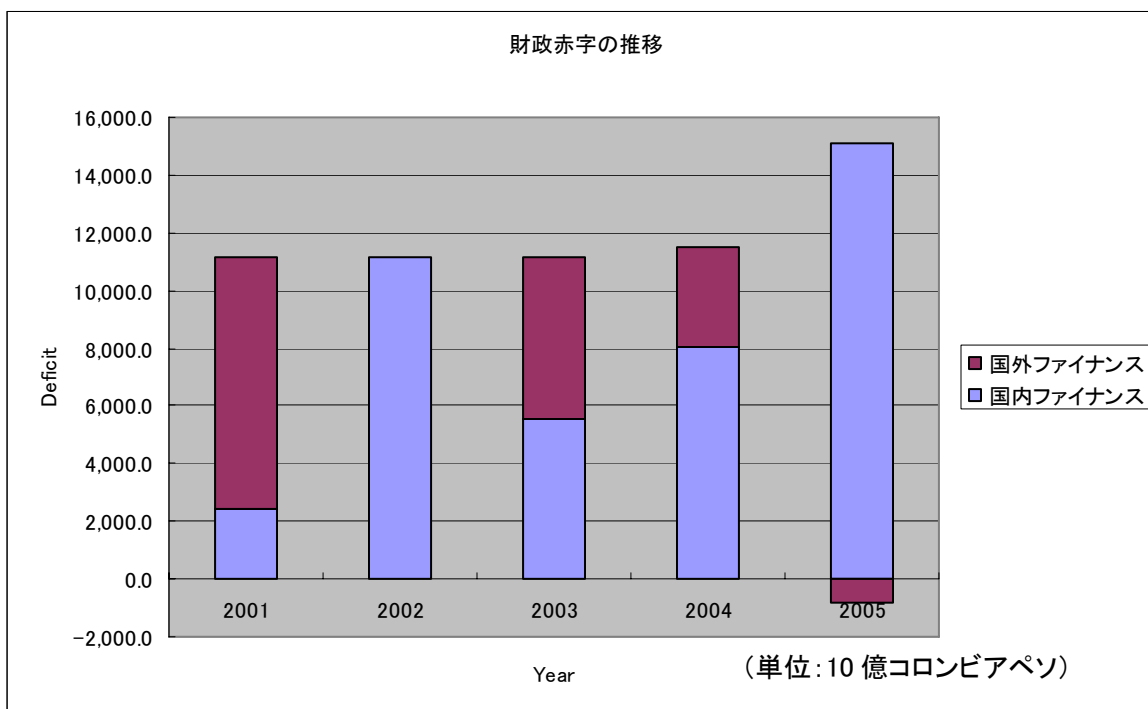
年	歳入	歳出	財政収支	国内ファイナンス	国外ファイナンス
2001	28,941.8	40,111.4	-11,169.6	2,423.1	8,746.4
2002	31,459.0	42,594.2	-11,135.2	11,154.2	-19.1
2003	35,798.3	46,927.1	-11,128.9	5,529.3	5,599.6
2004	40,629.2	52,111.5	-11,482.3	8,036.1	3,446.2
2005	46,207.4	60,465.2	-14,257.8	15,079.0	-821.3

(出所:コロンビア中銀)

¹ Moody'sによる同格付けは1999年8月以降Ba2で変更なし。

² 2005年のGDP成長率は5.1%。2007年3月23日の政府発表によると、2006年は更に拡大して6.8%となった模様(過去29年振りの高水準)。2007年は5.5%程度の成長率が見込まれる(Citigroup、Barclays Capital等予測)。

(表 2)



(出所:コロンビア中銀)

2. 公的債務

- 公的債務残高のGDP比は、2002年の46%をピークに、過去5年間で大幅な縮小が見られ、2007年は31%となる見通し。これはスタンダード&プアーズ(S&P)の格付けで投資適格とされるBBB諸国の中央値の水準³。
- 中央政府の資金調達は近年、国内ファイナンスが中心となっている(表2参照)が、主に外貨建てで行われている⁴。

3. 対外債務

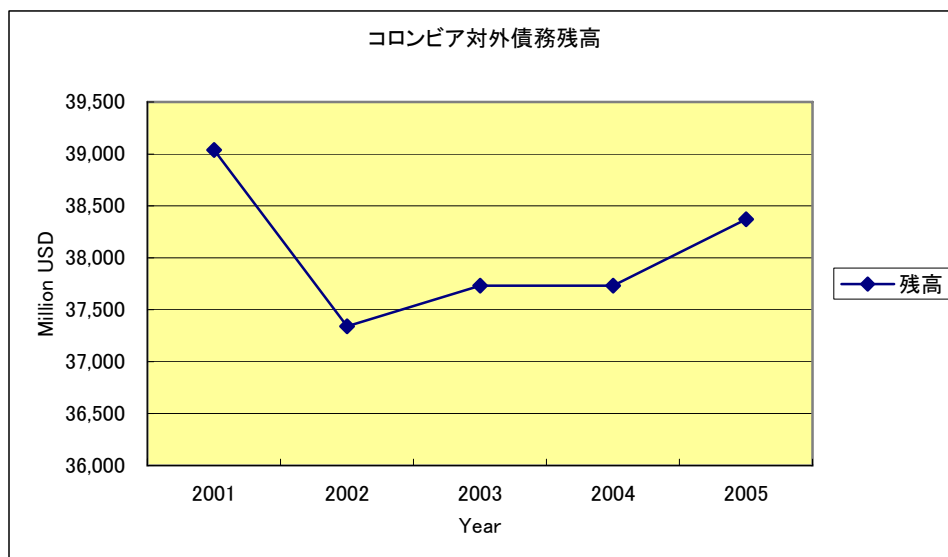
- 対外債務残高は、2002年末に373.4億ドルまで減少したが、2003年以降再び拡大に転じ、2005年末は383.7億ドルとなった(表3参照)。

³ S&Pはコロンビアの外貨建て国債の格付けを現在BB+としている。

⁴ Barclays Capital 2007年4月10日付レポートより。

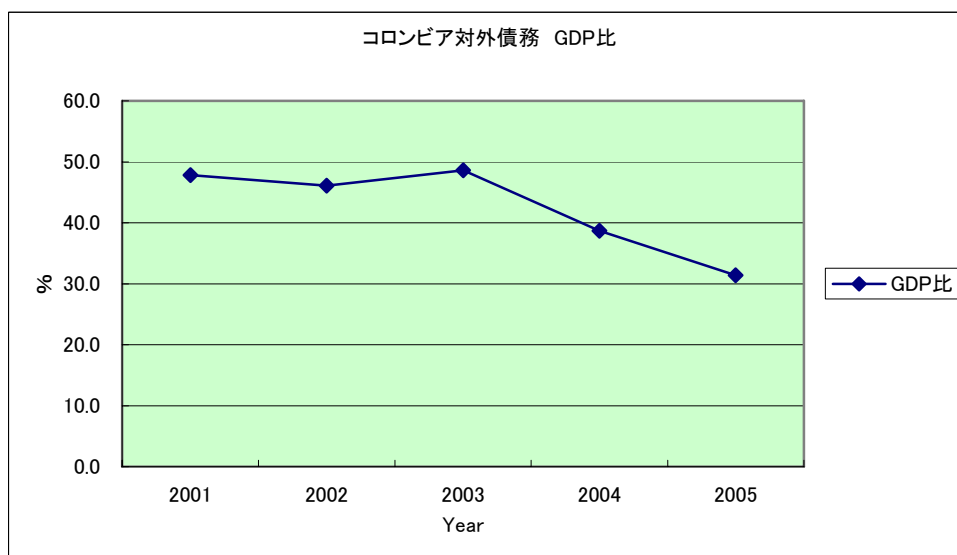
- GDP 比では、2003 年末に 48.6%まで拡大したが、2004 年以後 2 年連続で低下し、2005 年末は 31.4%まで縮小した(表 4 参照)。財務省公債局は 2007 年末迄にこれを GDP 比 28.7%まで更に縮小する計画。
- この点に関するウォールストリートのアナリストの見方は下記 5.参照。

(表 3)



(出所:コロンビア中銀・世銀)

(表 4)

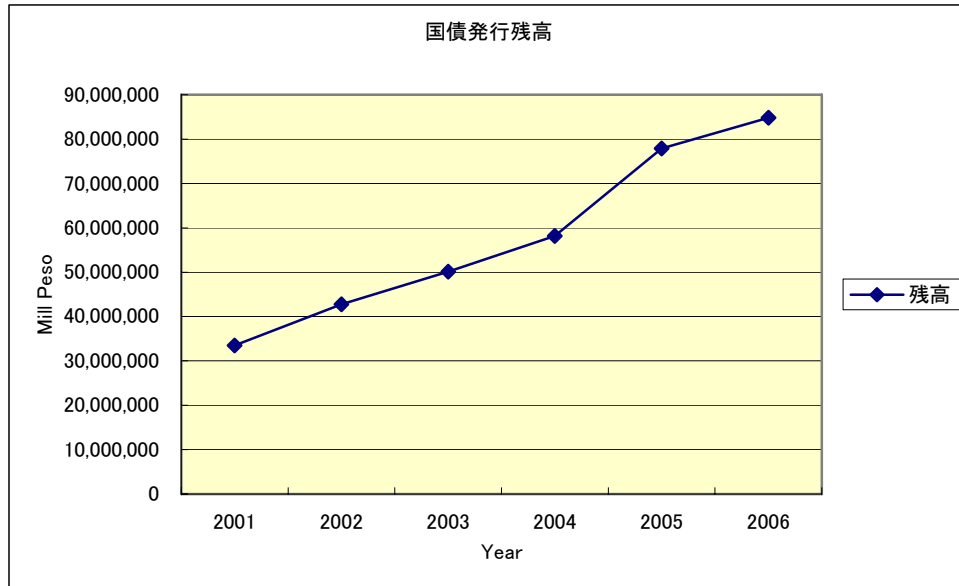


(出所:コロンビア中銀・世銀)

4. 国債発行残高

- 国債発行残高は増加傾向にある。2006 年末時点の同残高は、前年同期比 8.8%増の 84.82 兆ペソ(約 357.2 億ドル)となった。ペソベースでは 2001 年末時点の残高と比較すると、2.5 倍の拡大となる(表 5 参照)。

(表 5)



(出所:コロンビア財務省)

5. ウォールストリートのアナリストの見方

- S&P は、2007 年 3 月 5 日、コロンビアの外貨建て国債の格付けを BB から BB+に引上げた。同国の 2007 年経済成長率見通しが 5%以上であること、税制改革、公的債務処理にかかる政府の実績を引上げの主な理由として挙げている。
- 南米諸国の中でコロンビアは、ブラジル、ペルー、パナマと共に投資適格 (BBB/Baa3)に格付けが上げられる可能性のある候補国として、ウォールストリートのアナリストの間で注目が高まっている。
- コロンビアの公的債務の対 GDP 比縮小は、高い成長率が主な理由として指摘されているところ、政府財政赤字並びに公的債務各々の絶対値の縮小にかかる、 Uribe 政権(2 期目:2006~2010 年)の今後の手腕が注目される。

以上